いしよう。

全体として著者は、三月前期からエルフルト綱領の制定にいたる時期にドイツ社会民主党の好ましい伝統が形成されたと見ている。そしてその過程にかんしては、たんにマルクスやエンゲルスの役割を一方的に高く評価するのではなく、ラサールのはたした役割にたいしても肯定的な評価を惜しんではいない。またカウツキーについても、社会民主党におけるマルクス主義の公式化・物神化の責任をすべて無差別に彼に負わせる傾向に反対し、少なくともエルフルト綱領起草の段階でのカウツキーにはこの種の非難のあたらないことを説いている。

エルフルト綱領にあっては理論的部分と実践的部分とが弁証法的に統一されているとしてこれを高く評価する著者は、その後の歴史の中で、この綱領にもりこまれている党の伝統がくりかえし侵害されてきたとのべる。だが、著者は、エルフルト綱領以降の社会民主党の歴史をとめどのない堕落の過程としてまったく見離してしまっているわけではけっしてない。もちろん、官僚制による党機構の硬直化の指摘は忘れられていないし、また、一九一四年と一九三三年の「例題試験」に社会民主党が失敗したことの責任もきびしく追及されている。しかし他方で、著者は、ヴァイマルやボンの民主主義の中にかっての社会民主党のよき伝統のはるかな作用をみとめている。そして、現在の社会民主党についても、その現状をはげしく批判しながら、なお「社会主義社会のための闘争という放棄された偉大な伝統を復活させる」望みを棄ててはいないのである。

賛否は別として、著者の立場のよく滲み出た、問題提起的なユニークな党史であり、小冊子ではあるが一読にあたいしよう。

（B6判二四六頁　昭和四四年九月　ミネルヴァ書房刊　定価六八〇円）

（野田宣雄）

奈良県教育委員会編
藤原宮

本書は奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第二十五冊で、国道一六五号線橿原バイパスに伴う宮域調査の報告書である。本文を第Ⅰ章から第Ⅵ章にわけ、さらに付章として「遺跡・遺構の分類と標示方法」「藤原京域遺跡・遺物出土地一覧」「藤原京関係文献目録」「藤原京関係年表」を掲載している。巻末の、遺構遺物の実測図・写真は印刷が鮮明である。

第Ⅰ章では、調査に至るまでの経過がのべられる。昭和四一年一二月一四日から四二年五月三〇日までの第一次調査は道路建設費の一部を使用する、いわゆる原因者負担の発掘調査であり、道路開発側のペースでおこなわれたことを、本文と共に水田の畔を斜めに横切るトレンチの航空写真が、明確に示している。

第Ⅱ章は研究史が中心である。戦前の日本古文化研究所の発掘調査と喜田貞吉・足立康の藤原京条坊の研究、戦前・戦後にわたる田村吉永の研究にふれている。

第Ⅲ章では第一次調査から昭和四三年五月二〇日までの国庫補助事業による、二・三・四次調査の日誌を刻明に記載している。小活字で単調になりやすい日誌の中に「最初の木簡の発見」の文字をゴチックにし、

また遺構の断面図をはさんでいるのは親切である。

第Ⅳ章は遺構の出土状態を坦々とのべる。第一次調査は内裏区域、第二次は宮北方域、第三次は宮域の北限である。

戦前の藤原宮発掘では柱の礎石位置を示す掘形を検出できなかったのにくらべると、掘形を検出し、しかも、柱穴の底近くに柱の沈下を防止するため礎板をおいたり、粘土で地固めしていることを明らかにしたこの報告は、発掘技術が戦後飛躍的に進歩したことを物語る。

第Ⅴ章、遺物の観察では須恵器と土師器の形式図をかかげる。須恵器の断面は黒くぬりつぶして器質の硬いことを示し土師器の断面にはスクリーン・トーンを使用して器質の軟いことを示し、両者を区別しているのは大変よい。瓦では出土軒瓦分類別計測表をのせているが平城宮の表にある拓本が表中にないのは、ちょっとさびしい気がする。発掘調査で一番多く出土した木製品については詳細な図が挿入され、また織物や木質の拡大写真図もつけられている。また、層位別の木簡出土分布図をつけて、本簡が溝中に一括投棄されたことを推定している。削り屑をふくめると二一〇〇点にのぼるほど大量に出土した木簡は、郡評論争に終止符をうち道路建設を中止させて、遺跡を保存する重要な原因となった。

第Ⅵ章、考察は宮域と京域の推定をおこない、従来朝堂院の南端で応天門とされていたところが、宮域の南限を示す朱雀門ではないかと示唆している。土器では須恵器について形式変遷にふれ、藤原宮に先行する飛鳥の各宮でつかったものが伝世されて移動してきたことを示す。瓦は藤原宮以前の古い土器が運搬されているのに、以前の瓦が出土しないことから藤原宮で最初の瓦葺宮殿を造営したことを、証明している。また奈良県調査の軒瓦とあわせて戦前の日本古文化研究所調査の軒瓦出土点数を型式別に明示しているのは丁寧である。

藤原宮遺跡保護計画を推進するために、第二次以降の調査は宮域を確認することを優先的におこなったときいている。本報告書は、調査を続行しながら調査担当者が整理執筆したもので、その時機を得た出版にそそがれた労苦は、大変なものだとおもう。

（B5判　本文一五一頁・図判七〇頁・木簡釈文十二頁、昭和四十四年三月刊）

（浪貝　毅）

五二巻五号「古代史（オリエント・ギリシア史）研究の争点」正誤表

一二三頁下段六行目

（誤）…　この時代から千二、三年前

（正）…　この時代から千二、三百年前

一二八頁下段五行目

（誤）　ba-ga-ni RN sarrú

（正）　ba-ga-mi-' RN šarru

一九六九年一〇月二五日印刷
一九六九年一一月一日発行　定価三〇〇円

史林（第五二巻第六号）

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

発行人　史学研究会
振替京都五一一五五番

理事長　井上智勇

京都市下京区七条御所ノ内中町五〇

印刷所　中村印刷株式会社